

令和4年度

建設経済水道委員会行政視察報告書

☆ 視察日程

令和4年11月7日（月）

☆ 視察先

広島県府中市 こどもの国公園

☆ 視察参加者

【委員】	委員長	永田	憲男
	副委員長	藤井	洋
	委員	金藤	哲夫
	委員	近藤	康夫
	委員	村田	丈生
	委員	守田	文美

【事務局】	貞久	聡子（随行）
-------	----	--------

目 次

- 1 広島県府中市 こどもの国公園 1
- 2 視察を終えて（各委員の所感） 3

広島県府中市 こどもの国公園

広島県府中市土生町 1 5 8 1 - 7

- 1 視察日時 令和4年11月7日（月）
午後1時00分～2時30分
- 2 視察事項 こどもの国公園における複合遊具等の整備計画について

3 視察の概要

（1）府中市こどもの国 ポムポムについて

「府中市児童会館（児童館）」、「こどもの広場（公園及びトイレ棟）」、「桜つつみ」、「水辺のプラザ（ラジコンサーキット、親水広場）」から成る。

1993年、旧児童館の増改築に伴いオープンし、市内外からも子育て世代に人気で来場者が多く、ここ10年の来館者は年間12万人の人気施設で、2018年4月にリニューアルオープンした。

《指定管理者》（2018年4月～）※第2期：R4.4.1～R9.3.31

シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社

（2）府中市こどもの国公園について

●コンセプト

利用する子どもたちは、活発な子ども、一人で遊ぶのが好きな子ども、また障害のある子どもなど、一人ひとりが幅広い個性や好み、背景などを持っている。また、子どもに同行する家族や支援者をはじめ大人の利用者も多様で、障害を持つ親、妊娠している母親、幼い孫を連れた祖父母、遠足で多くの子どもを連れた学校の職員、散歩を日課とする近隣住民など、あらゆる人が公園の利用者と成り得るため、障害の有無はもとより幅広い年齢、特性、立場、状況の利用者を想定した公園づくりを目指した。

●整備目的

令和2年10月に中心市街地の20年～30年後の将来像を描いた府中市グランドデザインを策定し、描いたエリアの将来像に向けて、新たに複合遊具等を設置し、あらゆる利用者が安心して楽しめる公園となるよう整備。

●整備概要

（複合遊具等）

事業者選定：設計・施工一括発注に係る公募型プロポーザル方式

事業者：タカオ株式会社

（公園整備）

事業者：後藤建設株式会社 府中支店

●事業費

（複合遊具等）約1億1千万円

（公園整備外）約6千万円

●遊具の特徴

- ・ 巨大な木をイメージしたシンボリックな意匠
- ・ 全長約14mの高さ、多層フロア構造
- ・ 高さを活かしたローラーライダーやトンネルライダー
- ・ 近隣でも珍しい、トランポリン&ネットフロア
- ・ 多くの遊びの要素が随所にちりばめられている
- ・ 府中市をイメージしたデザインを各所に配置
- ・ 府中市初のインクルーシブ（ユニバーサルデザイン）遊具の設置



●工夫している点

- ・オープン時の2022年5月は、密を避けるため、土日祝日は1時間ごとの入れ替え制、予約制とした。
- ・周辺道路の混雑、渋滞を回避するため、天満屋・市役所を臨時駐車場とし、道の駅びんご府中からシャトルバスを運行。
- ・道の駅やJR府中駅から徒歩15分の「ポムこみち」を楽しみながら歩けるよう仕掛けをしている。
- ・遊具で遊んだあとは、川辺で遊んで、桜つつみでお弁当を食べて、家族の絆が深まる。
- ・トイレ棟については、ひろしま建築学生チャレンジコンペ2021を実施し、学生が作品のアイデアの提案から建物完成までの一連のプロセスに関わることができる全国唯一の取組を行う。

●今後の課題

- ・クーポン配布やスタンプラリーなど回遊性への仕組みや地域を巻き込む仕組みが必要。
- ・ファンを定着させるためのアクション（クラウドファンディングなど）の検討。
- ・夏季は猛暑で遊具での遊びは危険なため、冬季の利用が多い可能性がある。温かい飲食のキッチンカーなども検討。

4 主な質疑応答

Q 未就学児（3歳未満）を対象とした遊具の設置は考えなかったのか。

A 児童館内が元々低年齢向けであるため、公園のインクルーシブ遊具に関しては、3歳～6歳を対象としている。

Q 予期しない事例（からまり、引っ掛かり、落下、挟み込みなど）が発生した場合の安全対策、子どもの予期せぬ遊び方に対する対策は具体的にどんな提案があったのか。

A プロポーザルの際の評価基準にも安全対策等の項目を設けている。また、今までのノウハウや過去の実績がある業者を選定している。

Q 建築学生チャレンジコンペのねらいは。

A 広島県が元々行っていた。今回91作品の募集があった。



視察を終えて

委員長 永田 憲 男

府中市のこどもの国複合遊具整備工事は、新たに複合遊具等を設置してあらゆる利用者が安心して楽しめる公園となるように整備されたものであった。活発な子ども、また障害のある子どもなどあらゆる人が公園の利用者となりえるため、障がいの有無は元より幅広い年齢、立場、状況の利用者を想定した公園であった。

今後、当市で整備されるインクルーシブな遊具を併設した公園の建設に対し、色々と参考になる視察だったと思う。充実した意見交換ができ、なにより具体的なものが見られたことが良かった。

副委員長 藤井 洋

府中市は人口減少が進む中、子育て世代を応援するための政策に非常に力を入れていた。この度視察した公園遊具は、子育て支援だけではなく、施設と中心部をつなぐシャトルバスを走らせることで交流人口を増やし、市全体の活性化を考えられていることが参考になった。

委員 金藤 哲夫

すぐに子どもが飛びつきそうな遊具があり、利用率からしても人気の施設だと感じた。安全面においても随所で配慮がされている。単独の施設だけでなく、シャトルバス等によって市内の施設（道の駅）とも結びつけ、稼働率、交流人口を増やす工夫がされている。ここに携わる人々の笑顔が見えた。

委員 近藤 康夫

広島県府中市こどもの国ポムポムは、「笑顔と出会いのひろば」である。市の内外から若者や子育て世代を中心に幅広い世代が、憩い、くつろぎ、学び、チャレンジする中で、楽しい一日を過ごせるパワースポットだと感じた。

3歳から6歳までの幼児と6歳から12歳までの児童に対象エリアを区分しており、事故回避のための様々な工夫がされていることに感心した。子どもたちは、安心しておもいっきり遊べると思った。

また、隣に約5,000万円の予算を投入し、建築中の公衆トイレも、ジェンダーフリーの最新のものと思われた。呉高专出身の横浜国大・建築学科の学生3名の設計案が採用されたとのこと。

学生アイデアが生かされたことはすばらしい。芦田川のほとりに立つ、この施設が伝統ある府中家具のまちに、新たな色彩（いろどり）をもたらしていると思う。

また、国登録有形文化財の老舗旅館「恋しき」は、現在、市により、リニューアル中との由。石州街道にあって、固有の存在感を示す、この趣きある地域のシンボルを、いつの日かまた訪れてみたいと強く思った。

委員 村田 丈生

20～30年後の市街地の将来像をランドデザインとして描き、子育て世代の方々を応援する施設を中心に周辺整備が行われていた。こどもの国公園においては、あらゆる利用者が安心して楽しめるように複合遊具等が設置され、利用する子どもたちも、活発な子ども、一人で遊ぶのが好きな子ども、障がいのある子どもなど、幅広い個性や好みに合わせて遊べるよう工夫がされていた。

また、子どもに同行する家族をはじめとする大人の利用者についても近年は多様性がある。

妊娠している母親、幼い孫を連れた祖父母、遠足で多くの子どもを伴った学校の職員、散歩を日課とする近隣住民等、障がいの有無はもとより、幅広い年齢、特性、立場を想定した公園づくりが必要であると感じた。

1番大切な遊具の安全確認については、毎朝夕、ゴミ拾いを兼ねて安全確認しているとのことであった。

経済効果をねらって、公園と道の駅を結ぶシャトルバスも運行しており、周辺環境も含めて整備することも大切であると感じた。

委員 守田 文美

1. はじめに

ご多忙の中、当委員会の視察に対応してくださった、府中市議会議長をはじめ担当課のみなさまに改めて感謝を申し上げたい。当委員会の質問に、資料を交えながら視覚的にも分かりやすい具体的な説明をしていただき、子どもを中心に施策を展開しておられる府中市の熱意を感じた。

2. 設置までについて

- (1) プロポーザル方式で実施し、応募があったのは2社であったとのことであった。出来上がり予想図を、市内学校で子ども達に見せ、アンケートを実施された。子ども達の結果は五分五分だったが、府中市の特色をより理解していた業者を選定したとのことであった。
- (2) 安全対策については、業者側が安全対策のノウハウをもっており、柵を高くする、通り抜けられないようにする、ネットを2重張りにする等の提案があった。
- (3) 遊具の対象年齢については、3歳以上のものを選んだ。併設児童館ポムポムで小さな赤ちゃんたちは遊べるため、すみ分けをおこなったと

のことであった。

本市の構想では、恋路の冒険の森が対象年齢高めの遊具が設置されたため、恋ヶ浜は対象年齢低めの遊具を設置したいとのことであったが、年齢差のある兄弟が訪れる機会が多いことを考慮すれば、恋ヶ浜公園内でのすみわけが必要ではないかと思われる。

3. 利用者について

インクルーシブ公園の主たる目的として、障害の有無にかかわらず誰もが遊べることがあげられる。視察先において、障害者の利用について尋ねたところ、障害者デイでの利用が多く見受けられるとのことだった。

恋ヶ浜においては、施設から多人数の利用者がくるところを前提に、駐車場から遊具やトイレに向かう動線について、障害者の動線、乳児の動線、幼児（1～2歳）の動線、幼児（3～5歳）の動線、小学生の動線について、配慮をする必要があると感じた。

4. 設備について

(1) ゴムマットについて

ゴムマット全面張りが、子どもがケガをしにくい点、遊具の劣化を防げる点（砂がかかると劣化が早い）、車いす等が移動しやすい、除草がいらなくなる点で優れている。問題点はコストが増額することとのこと。

恋ヶ浜公園においては、敷地面積が広いことから導入については費用面から難しい可能性があるが、部分的に取り入れることは検討可能かもしれない。

(2) 駐車場について

駐車場が少ないことを利用して、道の駅からシャトルバス（土日祝）を出し、道の駅来場者数増加に寄与している。

恋ヶ浜公園は、近隣に経済効果を生む場所がないことから、何らかの対策を練る必要がある。

5. 運営について

(1) 運営管理者について

管理は併設児童館ポムポムと一括して指定管理者に委託されている。委託料は年間 4980 万円。公園設置により、夜間照明費が増えている。

(2) 遊具の定期点検について

遊具の点検費は施工業者の補償範囲で、3年間は無料となっている。

(3) 予約制について

コロナ禍の2022年5月にオープンしたことから、最初は予約制

にし、混雑を回避した。現在は解除されている。予約システムは併設児童館ポムポムのシステムを利用されていた。

恋ヶ浜公園は、併設の児童館がないことから予約制は難しい。ただ、コロナ禍の行動制限は緩和されつつあることから、予約は不必要かと思われる。

(4) 夜間の入場制限について

夜間の入場制限をしている。遊具保護のためである。夜間の利用を求める声もあり、今後の課題とのこと。

昼間外に出られない子ども達や、障害によって他者がいる場では気兼ねなく遊ぶことができない子ども達に配慮して、夜間等人が少ない時間帯にも利用を認めるべきではないかと感じた。

6. 今後の課題について

利用者増加に伴い、ごみのポイ捨ても増加した。ごみの処分費用が増加した点が問題点とのことであった。

恋ヶ浜公園は、周囲を木々に覆われていることから、ごみのポイ捨てをすするリスクが高まると思われる。対策が必要である。

7. おわりに

府中市は、市内学校が小中一貫校となっており、都会と地方の教育格差是正に向け動き出している市でもあり、子どもを中心に市の未来を考えておられる施政方針が公園事業一つの中にもたくさん垣間見ることができた。府中市の情熱を大いに感じた視察であった。